

第1回 学校運営協議会 記録（令和8年5月26日実施）

1 全体会

- (1) 学校運営協議会委員委嘱について
- (2) 各委員から自己紹介
- (3) 議 事
  - ア 学校運営協議会の概要について
  - イ 学校運営協議会の会則について
  - ウ 会長・副会長選出、分科会メンバーについて  
会長に吉田浩二様、副会長に酒井淳様と村井雅登様が承認されました。  
その他、分科会のメンバーは資料4・5の通り。
  - エ 令和8年度学校経営方針・教育活動予定について
  - オ その他

2 部 会：各部会で協議された内容

○地域連携・探究部会

- ・教員より、現在実施している地域連携・進路探究に関する主な活動内容について報告
- ・1年生の探究活動に関するゲストスピーカーの要請  
→関根様より提案があり、後日詳しい話を聞く
- ・学校の活動を地域に発信する方法について  
→提案された発信手段：FMわっぴー、町内放送、役場インスタグラム、回覧板  
地域の大人が高校の授業（中高ガイダンス等）にオープン参加できるよう案内も検討
- ・地域イベントへの参加  
→過去事例：島まつりでの高校生ブース出展、50周年プレイベントでのクイズ大会  
商業フェアは地域から好評だったが、商業科廃止後は規模・準備面から断念中。  
お祭り等への参加は、春の段階から計画・相談すれば、予算・バス等で両町からの支援も可能ではないか。→ 早期の企画・相談が重要と確認
- ・北海道情報大学教授藤本先生よりアドバイス  
→プロジェクト型・実践型の取組は、現代の教育トレンドである「主体的な学び」と合致しており、正しい方向性と言える。  
高校生に主体的に考え・行動させる「促し方」が成功の鍵。  
地域が「実験の場・発表の場・販売の場・コミュニケーションの場」を提供することで、生徒が生き生きと活動でき、グループワーク・共同作業を通じた学びの深化が期待できる。

○生徒支援・魅力化部会

- ・パン製造（2年生の総合的な探究の学習の時間で企画中）について  
→郵便局での無人販売などの既存ルートも参考になる。  
地元食材の活用の観点から利尻の昆布粉末（昆布パン）や、地元の漁師がストーブで作っている利尻の海水を使った塩パンの活用。  
地域おこし協力隊や、島内で発酵食品（キムチや納豆など）づくりのワークショップを行っている人材を学校に招いて協働する。
- ・観光に関連して  
→外国人のレンタカーの運転マナーが課題になっている。警察でもポスター等を考えているため、高校生が作る英語パンフレットに交通マナーの要素を入れてもらえると非常にありがたい。完成したらぜひ警察側にもフィードバックしてほしい。  
定番の観光地だけでなく、高校生目線での隠れた魅力（満天の星空、白銀の山、冬の

アクティビティ、素敵な島民の紹介など）を掲載するとよいのでは。  
パンフレットはフェリーターミナルなどで配置すると良い。各祭りでも要望があればパンフレットを設置してもらえらる。

- 福祉に関連して

→高齢者を狙った不審電話などの被害相談が多いため、高校生のスマホ教室をするのはどうか。そこに警察官も同席し、一緒に防犯講話を行うと、地域との結び付きも深まり、高校生にとっても学びの場となる。  
場所について、大法寺などの寺院の提供が可能。お寺は普段から高齢者が集まるコミュニティの場になっているため、高校生が教えに来る場所としても最適。  
冬場の独居高齢者宅の雪かき・灯油タンクの除雪ボランティアなど、若い力が求められている。